

訪問 Part 2

障害者雇用事例データベースを 覗いてみれば

障害者職業総合センター（幕張）・データベース事業

迎えのリフトワゴンに乗り込み、労働省を後にした「うめ・ナミ」コンビの次なる行先は、千葉の幕張にある日本障害者雇用促進協会・千葉障害者職業総合センター。

ここにも「FLANKER」の愛読者で、自らを「隠れプロップ」と呼ぶ金子直未さん（情報援助課）と丹直利さん（研究員）がおられるのです。訪問の目的は、センターが新たな取組みとして始められた「障害者雇用事例」のデータベースについてお聞きする事。

そしてあわよくば（？）門外不出といわれるこのデータベースの一端を覗きたい---という、大胆な願いを胸に、ワゴン車は一路、千葉へ向かうのであります。

ナミねえ あんまり道が混まなくて良かったね。

うめ吉 これやったら、ゆっくり取材して最終前の新幹線に乗れそうや(^.^)。

などと言いつつ、千葉障害者職業総合センターに到着。

ナミねえ 立派な建物やね。あ、金子さん！

金子さん やっほ〜！（と、賑やかに登場）

うめ吉 こんにちは。お久しぶりやけど、お元気そうですね。

金子さん お二人こそ。遠い所ようこそです。

ナミねえ 今日はお世話になります。

金子さん いえいえ、こちらこそ。お疲れと申しますが、最初に研究主幹がセンターの説明をしますので、よろしくお願ひします。

という事で、研究主幹の竹村三郎氏から、千葉障害者職業総合センター（以下、総合センターと略す）の概要をご説明戴きました。

お話によりますと・・・

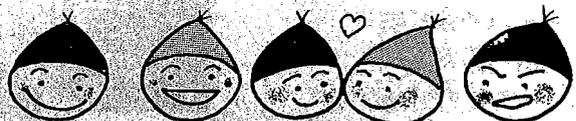
総合センターは、障害者雇用に関する研究・研修及び情報の提供などを目的として、1992年10月に開所されました。母体は、日本障害者雇用促進協会です。

総合センターは協会の仕事のうち、各都道府県にある障害者職業センターの運営の統括と研究、スタッフの研修などを行う機関で、職業リハビリテーション関連施設の業務の企画・調整・指導・管理と職業カウンセラーなど専門職員の養成研修を行う職業リハビリテーション部、障害者の職業的自立のための職業準備訓練、職業講習、職域開発援助事業、そして障害者職業訓練校などの企画・指導にあたる職業センター部門などと、研究、情報援助部門があります。

今回の私達の訪問の大きな目的である「障害者雇用事例情報データベース」は、情報援助課の事業の一部で、他に「社会資源情報データベース」「環境デザイン・機器情報データベース」「職業リハビリテーション文献情報データベース」などがあり、公衆通信回線を利用して全国の職リハ施設をはじめ、関係施設に対しての情報提供を一部運用開始しました。これは、個人での利用はできません。

また、研究開発部門では「特別研究」として今年度から5年間の計画で「障害者就労支援技術開発委員会」が設けられました。

研究開発部門の目的は、障害者の職業リハビリテーションのすべてのプロセスに関する基礎的、応用的な研究・開発を総合的に実施することです。したがって、研究スタッフの専門分野も心理・法律・経済・工学などと、大変多彩です。



竹村氏のお話の後、いよいよ「雇用事例データベース」にアタック。

このデータベースには、障害を持つ人を様々な努力で雇用に結びつけた「好事例」がリストアップされています。

全国各地の事例から、肢体・聴覚・視覚に障害を持つ方1名ずつの事例をピックアップして掲載

させて戴く事になりました。掲載にあたってはプライバシー保護のため、本人や企業が特定されないよう改編して戴きました。

データベースご担当の職員の皆様に心より感謝申し上げますとともに、本人の意欲と企業努力で様々な障害を持つ人が就労している実状を知って戴ければ――と思います。

＊ 障害者雇用事例情報データベースの一部 ＊

1.状況

(1)個人の状況	Aさん	35歳 男性 3級 精神薄弱手帳 軽度 障害名：脳性小児麻痺による両上下肢の軽度麻痺 状況：跛行はないものの、歩容はややぎこちない。 上肢の関節可動域には制限は認められないが、手指動作は滑らかさを欠き、軽い振戦がみられる。	
	Bさん	19歳 男性 2級 障害名：感音性難聴による両耳とも100db 状況：聞こえのレベルは静かな所で1mほどの距離から大きな声で話せば音として感じる程度。発語は不明瞭でほとんど聞き取れない。	
	Cさん	55歳 男性 1級 障害名：中途視覚障害 状況：視力は手動弁程度で、日常生活の移動も介助が必要。	
(2)履歴			
最終学歴	Aさん	Bさん	Cさん
職業訓練の受講	なし	あり	なし
準備訓練の受講	あり	なし	なし
職業講習の受講	あり	なし	なし

2.一般的な水準を基準とした理解、コミュニケーション能力評価

能力評価項目	Aさん	Bさん	Cさん
言語による基礎的理解	問題なし	できない	問題なし
言語によるコミュニケーション	問題なし	できない	問題なし
文書（視障は墨字・拡大文字）による基礎的読解力	やや問題あり	できるが実用的でない	できない
文書（視障は墨字・拡大文字）によるコミュニケーション	やや問題あり	できるが実用的でない	できない
手話による基礎的理解	—	できる、実用	—
手話によるコミュニケーション	—	できる、実用	—
筆談によるコミュニケーション	—	できるが実用的でない	—
口話による基礎的理解	—	できるが実用的でない	—
点字による文書内容の基礎的理解	—	—	できる、実用
点字によるコミュニケーション	—	—	できる、実用

3.一般的な水準を基準とした作業・生活能力評価

能力評価項目	Aさん	Bさん	Cさん
働くことへの関心	十分にある	十分でない	十分にある
日常生活をおくる上で必要な生活動作が自立しているか	問題なし	問題なし	やや問題あり
就労中、問題のある医療措置の必要性	なし	なし	ややあり
就労に必要な基礎的体力	問題なし	問題なし	問題なし
本人が必要とするときに支援してくれる身近な人が期待できるか	期待できる	期待できる	期待できる
日常的に利用する身近な公共交通機関を使った外出ができるか	問題なし	問題なし	単独ではできない
最低限度の自己管理と対人関係に問題を生じない程度の社会生活	問題なし	問題なし	問題なし
手指の強調動作による作業などの遂行	やや問題あり	問題なし	問題なし

4.就職状況

項目	Aさん	Bさん	Cさん
就職年月日	1992年3月16日	1989年5月8日	1990年11月15日
職業	他に分類されない労務者	金属工作機械工	総務事務員
勤務時間	8時～17時 (8時間/日)	8時15分～17時 (8時間/日)	8時30分～17時10分 (8時間/日)
就業形態	常勤	常勤	常勤
休業形態	その他	完全週休2日以上	週休1日

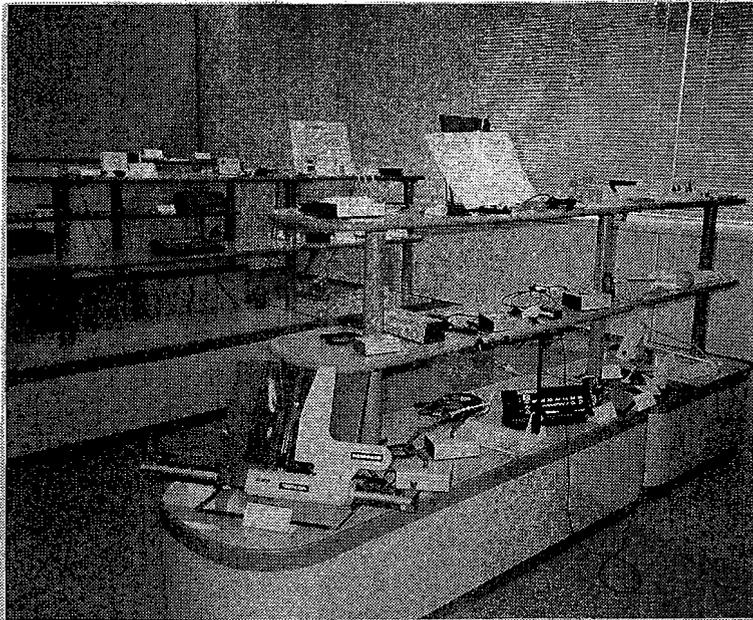
7.職場改善 <<人的環境・制度等>>

改善・考慮項目	Aさん	Bさん	Cさん
相談員、カウンセラーの配置	行った	行った	行った
健康管理への配慮	将来的に考慮する	行った	行った
労働条件への配慮	行った	行った	とくに行わない
社員旅行、リクレーションへの配慮	行った	とくに行わない	行った
作業補助者の専任化への配慮	とくに行わない	とくに行わない	行った
他の職員への教育、啓蒙への配慮	行った	行った	行った
管理職への教育、啓蒙への配慮	行った	行った	行った
研修、社員教育の方法の改善	行った	将来的に考慮する	行った





この人が「金子直未さん」です！



「隠れプロップ」こと、金子直未さんのご案内で、援助機器のコーナーを拝見しました。紙面の都合で、写真のみになってごめんなさい。

読者の皆様も幕張方面へお越しの節は、ぜひ総合センターを訪ね、様々な機器に触れてみて下さい。

合い言葉「プロップ！」と叫ぶと、金子さんが登場して下さるかも(^_^)。

援助機器に関する質問のふりをして、実は「金子さん、大阪に遊びにおいでよ～」と誘いまくる、うめ吉でありました。(ナミねえ)